

# 無許可消費数量の打揚煙火を消費する皆様へ

愛知県

煙火を消費する場合は本来知事(市町村長等)の許可が必要であり、消費にあたって守るべき基準は「火薬類取締法」で規定されています。例外的に一定の大きさや数量以下の煙火については無許可で消費することが認められていますが、その場合であっても「火薬類取締法」の消費の基準は遵守する必要があります。ここでは、その中で特にご注意いただきたい基準や、事故例からみた注意点を紹介します。煙火を消費する際は、煙火の製造・販売業者が実施する保安教育を受け、指示に従っていただくほか、これらの基準を遵守して事故防止に努めてください。

## 最近の事故から特に注意いただきたいこと



- 打ち揚げは経験のある者を含めた2名以上で行うこと。
- 煙火の打ち揚げ場所周辺の、可燃物の撤去、草刈りを徹底すること。刈取った枯草は付近に放置しない。
- 消火用の水（バケツ）、消火器等を用意すること。

### ■ 基本的事項

- 酒気を帯びていないこと
- 強風（風速10m以上）、大雨、火災警報など、危険の発生するおそれがある場合は打ち揚げを中止すること
- 盗難予防に留意すること
- 18歳未満の者は煙火の消費に従事させないこと

### ■ 打ち揚げ場所

- 打ち揚げ場所は、人の集合する場所、建物等に対し次の距離をとること

煙火の直径	距離
直径 12cm 超 14cm 以下	160m
直径 9cm 超 12cm 以下	130m
直径 6cm 超 9cm 以下	100m
直径 6cm 以下	50m

- 打揚筒と打揚者の間に20m以上の距離が取れない場合（直接点火する場合）は、畳床又は同等以上の防護措置を講ずること
- 打ち揚げ場所の付近では喫煙、焚火など火気を使用しないこと
- 打揚筒は確実に固定すること

## ■打ち揚げる時は

- 煙火は使用前に吸湿、導火線の損傷等の異常がないことを確認し、異常があった場合は使用しないこと
- 打揚場所は立入禁止とし、危険がないことを確認した後でなければ点火しないこと
- 煙火及び打揚火薬は、容器に収納し、取出しの都度完全にフタか覆いをすること
- 打ち揚げ従事者はヘルメットを着用すること
- 打揚筒は、他の打揚げに従事している者に係る打揚筒に対して、2メートル以上の距離をとること
- 煙火を打揚筒内に入れるときは、紐等を用いて静かに降下させること（連発打揚の場合を除く）

## ■不発の場合の措置

- 打ち揚がらない場合は次のとおり措置すること
  - ・ 打揚筒内をのぞき込まずに直ちに打揚筒から離れること
  - ・ 十分な時間が経過した後に、打揚筒内に多量の水を注入する等の当該煙火が打ち揚がらない措置を講じ、煙火を取り出すこと
- 不発の煙火がある場合には、すみやかに回収して水に浸す等の適切な措置を講ずること

### 【その他の注意事項】

- ・ 一日の消費作業終了後は、やむを得ない場合を除き、消費場所に火薬類を残置させないこと。
- ・ 煙火を運搬するときは、衝撃等に対して安全な措置を講ずること。
- ・ 打揚筒の設置場所に携行する煙火の数量は、当該打揚げに必要な数量を超えないこと。
- ・ 打揚筒は、風向を考慮して上方その他の安全な方向に向け、かつ、打揚げの際の衝撃により当該打揚筒の方向が変化しないように確実に固定すること。
- ・ 打揚筒の使用中は、必要に応じてその内部を掃除すること。

※ このチラシでは、号砲などの打ち揚げの際に特に注意をいただきたい事項を抜粋し、御理解いただきやすいよう表現を変えて紹介しています。煙火消費にかかる技術基準の詳細については、火薬類取締法施行規則第56条の4を御確認ください。

火薬類取締法第25条第1項ただし書により、許可を受けずに消費することのできる煙火の数量（以下「無許可数量」という。）として、火薬類取締法施行規則第49条第4号及び第4号の2に規定する用途及び数量とは、次に掲げるものとする。

(1) 信号又は観賞用の煙火のうち、同一の消費場所において1日に消費できる無許可数量は、次のとおりとする。

ア 球状の打揚煙火

(ア) 外殻の直径6センチメートル以下のもの（2号） 50個以下

(イ) 外殻の直径6センチメートルを超え10センチメートル以下のもの（3号） 15個以下

(ウ) 外殻の直径10センチメートルを超え14センチメートル以下のもの（4号及び4.5号） 10個以下

イ 焰管200個以下の仕掛煙火 1台

ウ ファイヤークラッカーその他の点火によって（スモーククラッカーを除く。）爆発音を出す筒物（筒物1個の、火薬量が1グラム以下で爆薬量が0.1グラム以下のもの） 300個以下

エ 爆竹（爆竹1個が、1本あたりの火薬量1グラム以下で、爆薬量0.1グラム以下の筒物30本以下で連結されているもの） 300個以下

オ 競技用紙雷管 無制限

※ 区分ごとの数量が規定以下であれば、ア～オを同時に消費することは可能

(2) 映画、演劇等の効果用として、1日に消費できる無許可数量は、次のとおりとする。

ア 原料をなす火薬又は爆薬の量が1個15グラム以下の煙火 50個以下

イ 原料をなす火薬又は爆薬の量が1個15グラムを超え30グラム以下の煙火 30個以下

ウ 原料をなす火薬又は爆薬の量が1個30グラムを超え50グラム以下の煙火 5個以下

エ 発煙筒、撮影用照明筒若しくは爆薬（爆発音を出すためのものに限る。）の量が0.1グラム以下の煙火 無制限

※ 芸能の公演やスポーツの興行には、学園祭、結婚披露宴、公民館での行事等、入場料を徴収しないような催しは含まない。

※ 区分ごとの数量が規定以下であれば、ア～エを同時に消費することは可能

火薬類取締法第25条第1項の規定により許可を要するものは、無許可数量を超えるものが該当します。